

皆様こんにちは

私は長い間言語学に興味を持っており、特に日本語に興味があります。今日は私が最近学んだ日本語の特徴の一つ共有したいと思います。

この特徴は擬音語に関連しています。日本語には多くの擬音語がありますね。例えば、雨を表現する擬音語のポツポツは、雨粒が降り始めるときの音を表します。そして、シトシトは霧雨の時の音であり、ザーザーは豪雨の時の音です。

ノルウェー語などの言語には、この雨の降り方を表現する擬音語が殆どありません。この現象に気付いた医学者 角田忠信氏はこれを医学的に調べたかったのです。彼は日本語が多くの擬音語を有することが脳にも影響を与えと考え、医学的な実験を行い、興味津々の結果を見つけました。

では、実験の結果についてご説明したいと思います。

日本語を話さない人は雨などの音を聞くと、右脳が活性化します。これは予想されることで、右脳が音楽や騒音などという音を聞くのに関連しています。しかし、日本語を話す人が雨などの音を聞くと、左脳が活性化します。これは何故でしょうか。左脳は言語などを理解するのに関連しています。従って、例えば大雨の時、日本語を話す人には、雨の音がザーザーという実際の言葉のように聞こえているのです。

この現象は遺伝によるものではなく、日本語が異なる考え方を可能にしているという事実に起因しています。これは日本語を勉強する私達を更にやる気にさせてくれるでしょう。日本語を学ぶことで新しい文化だけでなく、新しい考え方も身に付けることができます。

以上で、発表は終わりです
御清聴ありがとうございました。